



◎この石碑は鹿野、石船農村公園（石船温泉南側）内にあります。

この標語は、平成16年に河川愛護月間標語公募で最優秀賞（国土交通大臣賞）を受賞された^{ありくにゆううん}有國遊雲さん（周南市）の作品です。

はじめに



私たちが住んでいるこの地球は、人だけではなく他の多くの動物や植物にとってもかけがえのない場所です。

近年、世界的な経済の急速な進展、人口増加とともに、自然環境への負荷が増大し、地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨など様々な環境問題が発生し、自然生態系に大きな影響をもたらすなど、国際社会の一致団結した取組みが不可欠となっています。

こうした課題を将来の世代に残さないためにも、これまでの市民生活のあり方を見直し、環境への負荷の少ない持続可能な社会へ変えていく必要があります。

このような中、本市では、平成16年に「恵み豊かな潤いのある環境の保全、創造及び再生と将来の市民への継承」を基本理念とした、周南市環境基本条例を制定し、この理念を総合的、計画的に推進するため、平成18年3月に「周南市環境基本計画」を策定しました。

本書は、この「周南市環境基本計画」に掲げられた基本施策・重点施策を総合的かつ計画的に推進していくため、現在の環境状況及び施策の進捗状況を取りまとめたものです。

さて、平成26年は、将来のエネルギーとして、水素の導入を促進していくことが必要としたエネルギー基本計画の策定に続き、水素・燃料電池戦略ロードマップが取りまとめられ、そして、11月には水素エネルギーを利用した燃料電池自動車が発売されるなど、「水素社会」の実現に向けた取組みが着実に進んでいます。

本市においても、平成26年4月に地産地消の水素を利活用する「周南市水素利活用構想」を定め、全国でもいち早く水素を利活用したまちづくりを推進しています。

また、このような環境を取り巻く状況や第1次環境基本計画の検証を踏まえ、本市の最上位計画である「周南市まちづくり総合計画」との整合を考慮しながら、第2次環境基本計画の策定作業を進めているところです。

次の10年、20年、さらには未来へと続く新たなまちづくりに向け、私たち一人ひとりが、ともに考え、ともに行動し、ともに喜び、このまちに住んでよかったと思えるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

終わりに、本書が、健全で恵み豊かな環境の保全に向けた市民の皆様の方々の力強い行動への一歩となり、「豊かな自然をはぐくみ 未来へはばたくまち 周南」の実現に繋がることを祈念するとともに、本書の作成にあたり、ご指導、ご協力を賜りました周南市環境基本計画推進委員会の皆様をはじめ関係者の方々に心からお礼申し上げます。

平成27年3月

周南市長 木村 健一郎